

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 総合シート

事業名称	「丘の生活拠点」(南花台)まちづくりモデル事業(事業期間:令和2年度～令和4年度)
事業の目標	<p>人口減少・少子高齢化が急激に進む開発団地が連なる河内長野市南部において、それらの玄関口に位置する南花台を、周辺開発団地の生活を補完できるまちとして「丘の生活拠点」に位置付け、平成26年度より、「地域住民が住み慣れた場所で多世代と交流しながら、生きがいを持ち、元気に暮らし続けることができるまちづくり」をコンセプトに『咲く南花台プロジェクト』を推進している。</p> <p>その間、地域活動拠点「コノミヤテラス」を中心に、買物応援や生活応援をはじめ、健康づくり、子育て支援、情報発信、南花台事業者の会の立ち上げなど、地域住民主体による地域課題解決につながる取組みを着実に実施してきた。こうした取組みを通じて、現在では多くの地域住民が多様な形でまちづくりに参画し、関西大学に加え他大学の参画も進むとともに、地域のスーパーコノミヤとの連携も年を追うごとに深まる中で、公民学によるお互いの信頼関係が高まり、地域の合意形成が図りやすくなるとともに、まちづくりの機運が非常に高まっている。</p> <p>「咲く南花台プロジェクト」をさらに推進し、自動運転による移動サービスを始め、新たな技術の導入による生活利便性の向上を図りながら、地域の公園やUR団地集約用地等の既存ストックを有効活用し、地域の魅力創出・活性化を図り、「暮らし続けられるまち」を形成しながら、高齢化に伴い自治会や地区福祉委員会など地域活動の担い手不足が課題となっているなかで、新たな担い手を発掘し、地域住民と事業者が連携した持続可能なまちづくりのモデルを構築する。</p>
全体の概要	<p>地域活動拠点「コノミヤテラス」を中心とした社会実験的活動の企画・実施及び活動の一環として、自動運転等未来技術を活用した地域の生活に機能する移動支援の構築を図る。また、UR集約型団地再生事業に係る多世代が交流できる公園(サッカースタジアムを含む)を整備することにより、地域住民の憩いの場や子どもの遊び場の創出、スポーツを通じた魅力あるまちづくりのモデルを構築する。あわせて、これらの事業について他の地域へ横展開を図り、河内長野市全体の地域活性化を生活利便性の向上につなげる。</p>

【数値目標及び実績】

項目		事業開始前	令和2年度 (増加分)	令和3年度 (増加分)	令和4年度 (増加分)	累計
南花台モビリティ(自動運転)の運行日一日当たり乗客数【人/日】	目標	0	20	30	30	80
	実績		0	10	30	40
南花台モビリティ(自動運転)の運営スタッフ数【人】	目標	0	10	10	20	40
	実績		3	13	20	36
南花台地区における年少人口(0～14歳)【人】	目標	500	10	10	15	35
	実績		1	5	15	21
横展開地域における活動参加者数【人】	目標	0	50	100	200	350
	実績		0	50	200	250

令和2年度の指標の状況及び事業への反映の考え方

- ・自動運転技術を活用した移動サービスの乗客数を把握することにより、外出する機会の創出や、地域活性化につながっているかについて、事業の直接的な効果を計測する。令和2年度は、コロナ禍により運行準備に時間を要し、年度中の運行開始と至らず、乗客数は0人となっている。
- ・地域課題の解決には地域住民が主体となり取り組むことが必要であり、取組みに参加する運営スタッフ数を把握することにより、地域の移動サービスを支える取組みへの参画状況が確認できることから、事業の直接的な効果を計測できる。南花台モビリティ「クルクル」の運行は令和元年度より実施しているが、未来技術による地域課題の解決を主題としているため、自動運転に関わるスタッフのみを指標としている。令和2年度は上記同様、コロナ禍で実証事業の実施に至らなかったことから、事前協議に参加したスタッフ数を実績としている。
- ・高齢化が進行するまちの再生という課題を解決するために、子育て世帯に魅力あるまちとなっているか、多世代が暮らしやすいまちであるかどうかについて、年少人口を把握することにより、事業の効果を計測できる。令和2年度においては、河内長野市全体では年少人口が減少している中、目標値は達成できていないものの、増加に転じていることは一定の評価に値すると思われる。
- ・南花台地域におけるまちづくりについては、当初の想定を上回る成果が生まれており、他地域における横展開事業の必要性がより高まっていることから、当初申請時において設定していたKPI、「南花台地区における総人口」を、「咲く南花台プロジェクト」の横展開地域において、新たに創出した活動の参加者を把握することにより、横展開事業及び地域活動拠点整備の直接的な効果を計測するため、「横展開地域における活動参加者数」に変更している。(別紙「参考資料1」参照)。令和2年度においては、コロナ禍による各種事業の遅れから実施体制を整えるまでとなっているため、実績は0人となっている。

※令和3年度以降は見込み

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 評価シート

事業名称	「丘の生活拠点」(南花台)まちづくりモデル事業	
要素事業①	「丘の生活拠点」(南花台)まちづくりモデル事業	担当課 総合政策部政策企画課

	実施内容	成果	事業費(千円)
令和2年度実施事業	<ul style="list-style-type: none"> 提案事業総合企画調整 「総合研究会」など各プロジェクト会議の運営 地域活動拠点「コノミヤテラス」の運営及び自立化の推進 南花台モビリティ「クルクル」の取り組み推進 「咲っく南花台プロジェクト横展開」としてイズミヤ河内長野店における地域活動拠点整備の実施 南花台モビリティ「クルクル」自動運転実証事業運行体制整備(ルート選定、電磁誘導線の敷設等) UR集約事業の推進(UR団地集約跡地における公園基本計画策定を含む) 「コノテラ通信」発行など地域による情報発信 	[参考指標] ●「コノミヤテラス」オープン日数:256日/年 ●「コノミヤテラス」運営による収益:60,900円 ●南花台モビリティ「クルクル」(手動運転)乗客数:170人 ●南花台モビリティ「クルクル」(手動運転)スタッフ数:53人 ●地域活動拠点「イズミヤゆいテラス」の整備 ●公園基本計画の策定	154,700
		(合計)	154,700

	【令和2年度評価】	【令和2年度の評価内容】
担当者評価	①非常に効果的であった	令和元年度に開始した「南花台モビリティ クルクル」について、年度当初はコロナ禍で運休したが、その間も運営スタッフと協議を進め、感染症対策を徹底した上で、10月より運行を再開し、移動支援としての効果を発揮できた。 また、府スマートシティ戦略構想の代表モデルとして、自動運転の実証事業にかかるルート選定や電磁誘導線の敷設など、運営体制の構築を実施した。 さらに、これまでの取り組みの広がりを受けて、スーパーシティ構想への申請も実施し、他自治体やNPO団体等からの視察も増加している。 一方で、UR集約跡地において、公園整備を検討する中、アンケートを実施し基本計画を策定するなど、地域内の合意形成を図っている。

評価: 交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

	【今後の課題・取組みなど】
改善	<ul style="list-style-type: none"> 「南花台モビリティ クルクル」の取組みと、生活支援や健康づくり、子育て支援などの取組みとの連携を図り、地域生活における移動の課題解決と、生活の質の向上、コミュニティの活性化など相乗効果を生み出していく。 自動運転技術による「安全性の向上」、「担い手の負担軽減」による新たな担い手の確保につなげていく。 UR集約跡地の活用に向けた調整、公園の集約に向けた検討等を行う。 南花台で創出されたまちづくり活動のモデルを市内他地域へ横展開し、市全体の活性化につなげていくことで持続可能なまちの構築を図る。 「イズミヤゆいテラス」での地域活動との連携を図り、生活の質の向上や、コミュニティの活性化など相乗効果を生み出していく。

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	